## 慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

714	·····································
Title	武山泰雄著 アメリカ資本主義の構造:寡占経済とその社会意識
Sub Title	
Author	原, 豊
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1958
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.51, No.10 (1958. 10) ,p.926(86)- 931(91)
JaLC DOI	10.14991/001.19581001-0086
Abstract	
Notes	書評及び紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19581001-0086

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

を克服することができよう。て理論を追求すれば、上記のようなあまり学問的純粋性のない表現解し、保険資本を貨幣取引資本、保険労働を不生産的労働と規定し保険学にあってはぜひ廃止したい。やはり保険を流通費用として理

相違・関係が示されている。て、銀行資本の集中集積のところでは、独占資本の理論が土台となっ

通して、一応具体的に把握してみる必要が大である。究の一里塚とはなろう。保険と景気変動の問題は、統計的な数字をたが、十分なる成果をあげえなかった。本書の本章もこの方面の研保険と景気変動に関しては、従来も多くの学者が研究を重ねてき

なしている。
の方面の研究は、マルクス保険学にとっては、大なる未開の分野を論保険学に較べて、明らかに本書においては従たる位置にある。こ本書の第二篇の保険史、第三篇の保険政策の部分は、第一篇の理

段と、その体系・内容が整理・強化されたならば、その時こそ、本夫氏の諸説にまで、みずからの分をも顧みず、非礼にも数々の批判夫氏の諸説にまで、みずからの分をも顧みず、非礼にも数々の批判さて、本書を稀有にして貴重なる書物と認めるものである。さらにて、本書を稀有にして貴重なる書物と認めるものである。さらに、本書を稀有にして貴重なる書物と認めるものである。さらに、本書を稀有にして貴重なる書物と認めるものである。さらに、本書を稀有にして貴重なる書物と認めるものである。さらに、本書を稀有にして貴重なる書物と認めるものである。さらに、本書を称有にして貴重なる書物と認めるものである。さらに、本書を称有にして、本書を称言という。

円) (庭 田 範 秋)は序二頁、目次六頁、本文二四四頁、B6版、保険研究所、三九〇は序二頁、目次六頁、本文二四四頁、B6版、保険研究所、三九〇と比肩を許さざるものとなろう。(著者は経済学博士、 拓殖大学に書はマルクス理論に則る保険経済学の書物として、広く一般の追随書はマルクス理論に則る保険経済学の書物として、広く一般の追随

## 武山泰雄著

## 『アメリカ資本主義の構造』

## ――寡占経済とその社会意識―

国家の経済への参画をとらえて、混合経済 (Mixed Economy)をもっては端的に割り切れない数々の要素を包括している。つまり、かープの利益関係が他のそれよりも特に重要視して運営されるとしループの利益関係が他のそれよりも特に重要視して運営されるとしアレンは資本に対する経営の優位をみて、資本主義というよりは経て、労働経済 (Laboristic Economy) と規定しようとしたし、アレンは資本に対する経営の優位をみて、資本主義というよりは経て、労働経済 (Laboristic Economy) と規定しようとしたし、アレンは資本に対する経営の優位をみて、資本主義というよりは経理会が、対象を対する経営の優位をみて、資本主義というよりは経理会が、対象を表するというよりは経理会が、対象を表するというよりは経知の経済への参画をとらえて、混合経済 (Mixed Economy)をもっては端的に割り切れない数々の要素を包括している。つまり、ないに関するというよりは経理会が、対象を表するというというし、またサミュエルソンも、対象を表すると、対象を表するというというに対象を表するというというに対象を表するといる。

と定義している如く、観点の少しのずれから種々の性格が浮彫りにとに義している如く、観点の少しのずれから種々の性格が浮彫りにとに、このアメリカ資本主義の諸相に十分に目を向けることが必要である。「日本経済新聞」ニューヨーク・ワシントン特派員として要である。「日本経済新聞」ニューヨーク・ワシントン特派員として要である。「日本経済新聞」ニューヨーク・ワシントン特派員として要である。「日本経済新聞」ニューヨーク・ワシントン特派員としても、かかと広汎な文献を通じて観察されたアメリカ資本主義体制を理解するも称すべきものであり、その点で我々にとって極めて有益なガイドの役割を果すものといって良かろう。

まず本書の構成は次のようである。

れる。 第一章 寡占経済とその倫理。ここでは、ビッグ・ビジネスによ

るものの内容に触れる。との関係およびこの二者を峻別すべきこと、福祉資本主義といわれう経営組織の変化と現実の在りかた、支配の構造と支配の執行機関第二章(寡占経済の経営・支配の構造。マネジメントの発展に伴

こと、また寡占経済下の競争は管理価格の普及によって新製品競争、生産――大量信用――大量販売――大量消費というプロセスである第三章(寡占経済下の競争。アメリカの繁営を保つものは、大量

販売競争に移ることが説かれる。

正取引法が崩壊にひんする。 ターパーマーケットやディスカウント・ハウスが発達、その結果公 スーパーマーケットやディスカウント・ハウスが発達、その結果公 第四章 寡占経済とマーケッティング。販売面での競争はマーケ

用とビッグ・ビジネスのねらいが説かれる。 き、圧力団体中最も有力な財界団体の実態、その勢力からもたらさき、圧力団体中最も有力な財界団体の実態、その勢力からもたらさ

いることが指摘されている。以上が大体の骨子である。 ない アメリカ体制の展望。アメリカにおけるビッグ・ビジネのへゲモニーは圧倒的であり会社国家への途が開かれる怖れがあ 合も労働者の生活水準向上によって現状維持的意識にむしばまれて 合も労働者の生活水準向上によって現状維持的意識にむしばまれて 合も労働者の生活水準向上によって現状維持的意識にむしばまれて 合も労働者の生活水準向上によって現状維持的意識にむしばまれて いることが指摘されている。以上が大体の骨子である。

る経済が既定の事実として君臨し、アメリカ民衆の上に政治・経済・は、いささか筋が違うし著者にとっても迷惑なことであろう。しかは、いささか筋が違うし著者にとっても迷惑なことであろう。しかは、いささか筋が違うし著者にとっても迷惑なことであろう。しかもとより本書は純理論的な観点に立つものでも、アイデオロジカもとより本書は純理論的な観点に立つものでも、アイデオロジカ

八七(九二

文化の領域を現状維持の停滯的意識の病魔とするような影響力を持りはしないかと著者は危惧しているようである。副題で、寡占経済している。 序文でもいう。「本書は一九二九年の大恐慌後ニューデしている。 序文でもいう。「本書は一九二九年の大恐慌後ニューデとの社会意識と断っているように、焦点をそこにしぼろうと努力とその社会意識と断っているように、焦点をそこにしぼろうと努力とらえ、その実態、特にアメリカ俗における権力のへゲモニーをとらえ、その実態、特にアメリカ係における権力のへゲモニーをとらえ、その実態、特にアメリカ体制における権力のへゲモニーをとらえ、その実態、特にアメリカ体制における権力のへゲモニーをとらえ、その実態、特にアメリカ体制における権力のへがモニーをとらえ、その実態、特にアメリカ体制における権力のへがモニーをとらえ、その実態、特にアメリカ体制における権力のへがモニーをといる政治と経済との相剋・抱合・寡占経済と可力を持たる。

〇〇〇万人の総雇用のうち八〇〇万人が従業員一万人以上の会社に、大田の一九四〇年の臨時国民経済調査委員会(TNEC)報告はアメリカ経済を二つの活動分野に分ける。第一は農業、卸売、小売、個人な業などであり、企業数は第一のそれに比して少数かつ大規模で価経済」として把握しようとするのは、この第二の分野、特に製造工業、批業、企業、建設業である。 かような 産業の 集中度はかなり高格はより硬直的な分野 である。 かような 産業の 集中度はかなり高格はより硬直的な分野 である。 かような 産業の 集中度はかなり高格はより硬直的な分野である。 かような 産業の 集中度はかなり高格はより硬直的な分野である。 かような 産業の 集中度はかなり高級業などであり、企業数は第一のそれに比して少数かつ大規模で価格はより硬直的な分野である。 かような 産業の 集中度はかなり高い。たとえば、アメリカの労働者のうち四人に一人は直接にせより、場合はアメリカ経済を二つの総属用のうち八〇〇万人が従業員一万人以上の会社に

%、「ためにならないと思う者」八%、「ためにもなるし、ならない 意味している。しかしこのことは、経済面での潤沢・保障および経 %の多きに上り、一〇%が解体すべしとしている。<br />
警戒しつつも是 由としては、「ビッグ・ビジネスは多くの雇用を与えるからいい」と ネスの功罪について『ルック』誌が行った世論調査を引用する。こ をもたらす契機ともなるのである。この辺の事情は歴史的に次のよ 営者のもつ新しい倫理に支えられ、やがては現状維持意識への沈潜 ビジネスと雇用という関連を生活実感として感じとっていることを 認するというこのような意識が存在するのは、大衆としてはビッグ・ ては、「厳重にビッグ・ビジネスの動きを監視せよ」とする者が八四 て第一位にある。しかし一方、ビッグ・ビジネスの解体如何につい 長と繁栄を援助する」、「生活水準を改善する」等の項目を引き離し る」、「ビッグ・ビジネスは試験的研究を促進する」、「国民経済の成 は、労働組合員の七九%、非組合員の八一%が注目される。支持理 とも思う者」七%、「意見なし」五%、 支持の側に立つ者の内訳で ると思うか、思わないか」の間に対し「ためになると思う」者八〇 れによると「全般的にみてビッグ・ビジネスはアメリカのためにな るともいえるのである。これを裏づけるものとして、ビッグ・ビジ カ人の思考、生活様式も規制する社会的、政治的制度になりつつあ ば、ビッグ・ビジネスは単なる経済制度というよりはむしろアメリ 雇われている。 この結果いかなる 事態が招かれるか。 著者に よれ いう回答が、「ビッグ・ビジネスは 大量生産により 価格を引き下げ

うに説明されている。

働きをしたし、他方大衆の生活意識が「機会から保障」重視の方向 想に支えられたニューディール政策による国家の経済面への積極的 いるとみられる。」と著者は推論している。 はジグザグのコースをたどりながらも基本的にはこの方向を進んで られてくる。「ニューディール以後のアメリカの政治・経済社会体制 の融合という経済・政治体制を支持する一般的雰囲気が十分に整え ジネスによる独占、寡占、さらにはビッグ・ビジネスと国家権力と かさが価値基準とされると、それを約束するとみられるビッグ・ビ ことにもなる。これに加えて、大衆の心の中で、当面の経済的な豊 に移るにつれ、 を旗印としたために、結果的にはビッグ・ビジネスを擁護育成する 介入がそれである。殊に、ニューディール政策は「競争より安定」 張っていた、「機会 oppotunities の追及」という哲学から「経済 ばかりでなく、モラルとして破産したことを意味した。ビジネスマ ンに対する大衆の不信、アメリカ人の心理の中にこれまで強く根を 大恐慌は、アメリカ経済体制が経済的に破産したことを意味する economic securities」という哲学への急転換・ケインズ思 保障の場としてのビッグ・ビジネスの地位が高まる

へのサービスのため」という言葉を企業のモットーとせざるをえな時にニューディール下の政府・組合などの監視が厳重となり、「大衆社会的批判はビッグ・ビジネスのその後の行動の自制を要求し、同経営者のもつ新しい倫理もこの方向を促進させる。大恐慌に伴う

というビジネス・リーダーシップの責任論を唱えるにいたる。というビジネス・リーダーシップの責任論を唱えるにいたる。だっグ・ビジネスによる寡占経済という現実が明確になれくなる。ビッグ・ビジネスによる寡占経済という現実が明確になれくなる。ビッグ・ビジネスによる寡占経済という現実が明確になれくなる。ビッグ・ビジネスによる寡占経済という現実が明確になれくなる。ビッグ・ビジネスによる寡占経済という現実が明確になれ

のような経済的・心理的な不安感が経済的便宜を優先するという価ない。バーナムは経営者が資本家に代る階級となるであろうと予言ない。バーナムは経営者が資本家に代る階級となるであろうと予言とが、そこにはブレディのいう支配の構造と支配の執行機関との危険がある。企業の規模が大となり経営組織が膨大精緻にならみれば、実際の支配者は依然として八大財閥などの資本家層であると述べられている。なお、この経営組織の複雑化と関連して、経営が把握される。特に、トップ・マネジメントと強力な労働組合に登機構の官僚化、ひいては著者が度々触れている現状維持の心理構造が把握される。特に、トップ・マネジメントと強力な労働組合に登が把握される。特に、トップ・マネジメントと強力な労働組合に登が把握される。特に、トップ・マネジメントと強力な労働組合になり、とはいうものの、経営者の新しい倫理は表面的な現象にしかすぎとはいう。

八九(九二九)

書解及び紹介

たくハッキリしない。」ことになり、 アメリカ経済の全体主義化、 
、バーナムが懸念するように「歴史的な経験からみても、 
人々が 
とする官僚意識の 精神構造が発生する ことにも なる。 かようにし 
状がまず我慢できる程度のものである限り、新しい試みを避けよう 
値意識と結び付くとき、現行体制を文句なしにうけ入れる心理や現

進の途としての大学教育も経費の 点で 容易では ない。 したがって 共に倒れるものである以上、 はない。「個々人の労働者にはいまや程遠いものとなりつつある個 グ・ビジネスの行動を側面から補佐し現状維持意識を助長する傾き かえって、『ルック』誌の調査から明らかであるように、それはビッ ては、一般に労働組合勢力が挙げられる。これはガルブレイスのい 中・下層ホワイト・カラー と 労働者が、「労働組合を通じてオポチ さえもつ。 **う相殺力である。しかし、労働組合がビッグ・ビジネスと共に立ち** 的機構を通ずる賃上げ、 人的な社会・経済的昇進、オポチュニティーが労働組合という集団 ュニティーに代るセキュリティーをかちとろう」と考えるのも無理 アンズム化が心配の的にもなるわけであるという。 もはやオポチュニティーの場ではなくなりつつあるし、また昇 今日、中小自営企業、自営農業は巨大資本の圧迫をうけ ビジネスのこのような強大な影響力に対抗するものとし 年金制度など福祉厚生制度の確立、 相殺力は自ら限界をもっている。否 雇用の

全弁の役割を果しているとさえいえそうである。」こと自体が、アメリカ寡占資本主義体制の維持にとってはむしろ安安定要請という形にとって代られ、個人の敗北感が中和されてゆく

る幻想でもある。」
をさらに強めているのは、アメリカ特有の『幻想』がアメリカ資意識の中に知らず知らずの間に滲透しているためである。その幻想意識の中に知らず知らずの間に滲透しているためである。その幻想意識である。そして第三は資本主義とはまったく違うものであるという意識である。そして第三は資本主義とはまったく違うものであるという意識である。そして第三は資本主義社会における国家の役割に対する幻想でもある。」

力を必要とした。しかしアメリカ資本主義体制は、これまでのとこかないにトラーを生み、ムソリーニを生み、そして天皇制という権がおにヒトラーを生み、ムソリーニを生み、そして天皇制という権があにヒトラーを生み、ムソリーニを生み、そして天皇制という権があにヒトラーを生み、ムソリーニを生み、そして天皇制という権があにヒトラーを生み、ムソリーニを生み、そして天皇制という権があた。あるいは福祉経済といわれようと、本質的にはまぎれもなく資本主義体制であり、しかもきわめて強力な資本主義体制である。く資本主義体制であり、しかもきわめて強力な資本主義体制である。とて、以上のような社会意識、政治意識、経済意識の下ではビジさて、以上のような社会意識、政治意識、経済意識の下ではビジネスのへゲモニーは圧倒的であり、ビジネスの哲学がアメリカ哲学ネスのへゲモニーは圧倒的であり、ビジネスの哲学がアメリカ哲学を必要とした。しかしアメリカ資本主義体制は、これまでのとこれを必要とした。しかしアメリカ資本主義体制は、これまでのとこれを制が方向とのでは、以上のような社会意識、政治意識、経済意識の下ではビジネスの大学を表す。

資本主義が急激な発展の後に来る収穫配分の時期に入ると、確かにた。最後に、一・二の私見を述べておこう。著者が指摘するように、以上概略ながら、著者の強調するところにしたがって論旨を追っ

ものである。(東洋経済新報社、三三年四月発行、 の詳細な説明は、われわれ研究者にとってさまざまな示唆を与える 寡占という市場条件を、TNEO報告の第二の分野として処理する 現状への満足から発展意欲を停滞せしめる動きも生れてくる。とは ケッティング、さらにワシントンとの関係にまで及ぶアメリカ経済 れる。さりながら、集中の実態から経営組織、価格決定機構、 ことは極めて簡便であるが、それだけに拡張解釈の危険もうかがわ ネスによる寡占経済として把握することについても異論があろう。 消極的な面とがうらはらの関係をなすことに関しては、さらに一段 いえ、 と鋭利な観察を必要としよう。また、アメリカ経済をビッグ・ビジ には帰納されない。殊に、繁栄という積極的な面と現状維持という いう時期と対処しているかどうかは、精神的停滞そのものから簡単 定価三八〇円) 今日少なくとも繁栄の段階にあるアメリカ経済が、 B 6 判、 正にそう 三一四